

## プレスリリース

発信者 公益財団法人 日本健康・栄養食品協会

理事長 下田 智久

〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 2-7-27

TEL:03-3268-3134 FAX:03-3268-3136

e-mail:shogaikouho@jhnfa.org

http://www.jhnfa.org

発信日 平成 31 年（2019 年）4 月 1 日（月） 渉外広報室

## トクホ市場 6432 億円 前回は僅かに下回る

### = 特定保健用食品の市場および表示許可の状況 =

特定保健用食品制度は 1991 年（平成 3 年）の発足から 27 年が経過し、国が健康強調表示を許可・承認する制度として国際的にも注目されています。

1993 年（平成 5 年）に表示許可第 1 号の商品が誕生し、2019 年 3 月末現在、特定保健用食品として表示許可・承認された食品は 1068 品目となっています。

当協会は特定保健用食品の制度発足以来、食品業界に対して許可取得のための関係省庁の行政方針および関連情報の入手・伝達を始め申請相談等の支援活動を進めるとともに、健康食品全般について消費者および関係先への情報提供等の活動を展開して参りました。

その一環として 1997 年度から特定保健用食品の市場規模調査を実施し、行政・学術関係者、国内外のマーケティング関係者など各方面に資料として提供しております。

この度、2018 年 12 月から 13 回目のアンケート調査を実施しましたので、その集計結果を中心に市場規模の推定とともに、表示許可等の現状についてご報告させていただきます。

本報告の作成に当たり、当協会会員をはじめとした特定保健用食品を開発、販売している各企業から多大のご協力をいただいたことに深く感謝いたします。



本件に関するお問い合わせは 公益財団法人 日本健康・栄養食品協会 特定保健用食品部 土田、中澤（TEL 03-3268-3132）または渉外広報室 福本（TEL 03-3268-3134）にお願いします。

## I. 市場規模調査

### 1. 調査方法

特定保健用食品の表示許可を取得した企業に対して、アンケート方式で2018年度の品目別販売見込額および販売経路別市場構成について調査を実施した。

アンケートは2018年12月末現在許可取得の1063品目を持つ企業157社のうち、3月末までの失効品目を除く、1056品目、155社を対象として調査を行った。そのうち154社（回収率99.4%）、1055品目（回収率99.9%）について回答が得られた。

売上げ見込み額の詳しい情報が得られなかった品目については、それぞれヒアリングや業界内の生産、販売統計その他から当協会にて推定した。

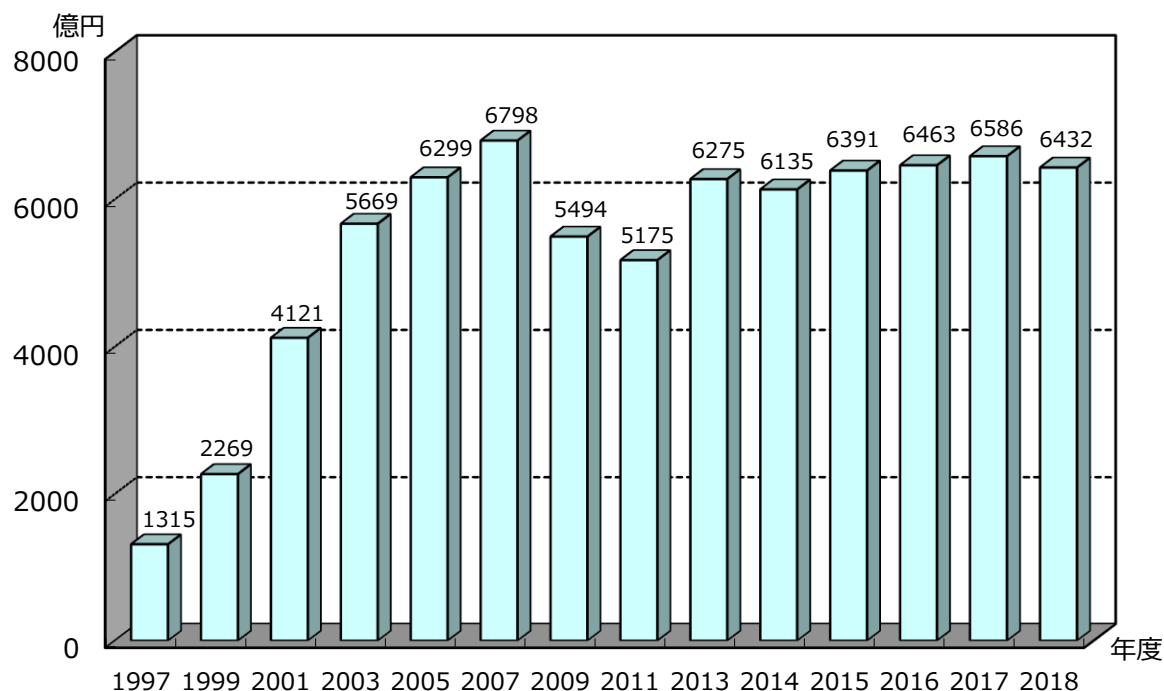
特定保健用食品の市場規模調査は1997年度から2013年度までは隔年で実施していたが、2013年度以降は毎年実施している。

### 2. 集計結果

#### (1) 市場規模

特定保健用食品の市場規模は、6432億円であり、2018年度は前回は僅かに下回った。

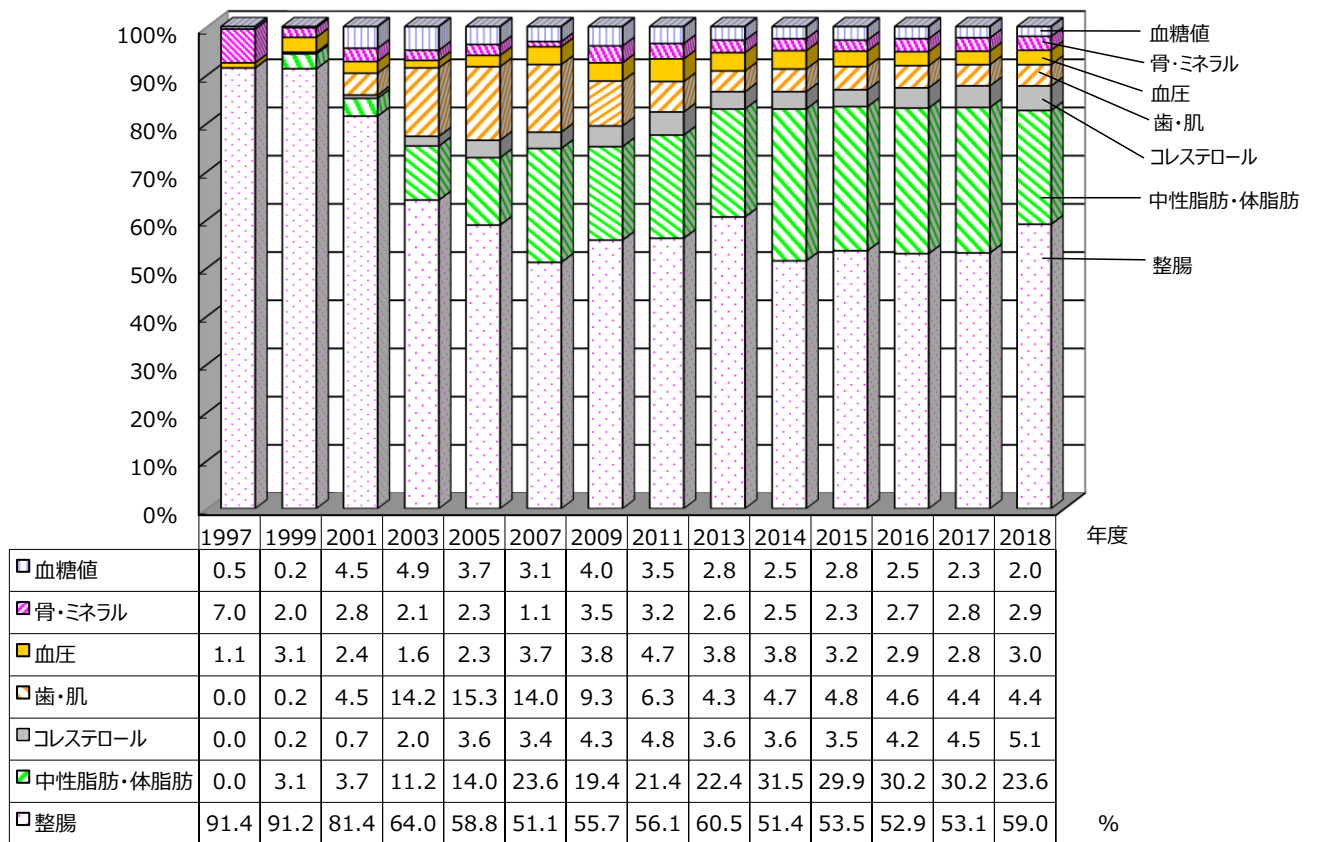
図1. 特定保健用食品の市場規模の推移



## (2) 保健の用途別市場概況

保健の用途別の構成比は、2007年度から2016年度まで「整腸」、「中性脂肪・体脂肪」、「歯」の順にほぼ横ばいで推移していたが、2017年度に「歯」とコレステロールの順が替わり、2018年度は、前年度に比べ、「整腸」が59.0%と最も大きく、「中性脂肪・体脂肪」が23.6%、「コレステロール」が5.1%と続いた（図2）。

図2. 保健の用途別市場構成の推移



保健の用途別の市場規模の推移は以下のとおりであった（表 1）。

**整腸**：特定保健用食品の中で最も規模の大きい「整腸」全体としては、調査開始以来、調査毎に増加を続けていたが、2005 年度をピークに減少した。その後、2013 年度に再び増加し調査開始以来の規模となり、2014 年度は再び減少したものの、2015 年度から増加を続け、2018 年度は前年度に比べ 108.5%と増加し、ピーク時の 2013 年度に近い水準となった。

「整腸」の中心となる乳酸菌関連品目は、特定保健用食品の市場規模全体とほぼ同様に推移しており、2005 年度をピークに減少したが、2013 年度はピーク時の 2005 年度を上回り大幅に増加した。その後、2014 年度より増減を繰り返し、ほぼ横ばいで推移していたが、2018 年度は前年度に比べ 108.8%と増加し、ピーク時の 2013 年度に近い水準となった。

オリゴ糖関連品目は、調査開始以来、大幅な増減を繰り返しながら推移しており、2014 年度をピークに減少を続けていたが、2017 年度に再び増加し、2018 年度は前年度に比べ 103.3%と微増した。

食物繊維関連品目もオリゴ糖関連品目と同様に調査開始以来、増減を繰り返しながら推移していたが、2014 年度をピークに減少した。その後、2016 年度に増加し、2018 年度は前年度に比べ 107.6%と増加し、調査開始以来の規模となった。

**コレステロール**：調査開始以来、着実に増加を続けていたが、2011 年度をピークに減少していたが、2015 年度より再び増加を続けており、2018 年度も前年度に比べ 110.4%と大幅に増加し、前年度に続き調査開始以来の規模となった。

**血圧**：調査開始以来、大幅な増減を繰り返しながら推移しており、2007 年度をピークに減少した。その後、2011 年度はピーク時に近い水準まで増加したものの、2013 年度より減少を続けていたが、2018 年度は前年度に比べ 105.9%と増加した。

**骨・ミネラル**：血圧と同様に、調査開始以来、大幅な増減を繰り返しながら推移しており、2009 年度をピークに減少を続けていたが、その後、2016 年度に再び増加し、2018 年度も前年度に比べ 101.7%と微増した。

**歯・肌**：歯は 1999 年度に初めて登場し増加を続けていたが、2005 年度をピークに 2013 年度まで減少が続き、その後、2014 年度に再び増加したが、2016 年度から減少し、2018 年度も前年度に比べ 97.4%と微減した。

**血糖値**：2003 年度をピークに減少し、その後、増減しながら推移し、2015 年度に再び増加したが、2016 年度から減少し、2018 年度も前年度に比べ 86.4%と大幅に減少した。

**中性脂肪・体脂肪**：歯と同様に 1999 年度に初めて登場してから増加を続けていたが、2007 年度をピークに減少した。その後、2011 年度から増加し、2015 年度に微減したものの、2016 年度に再び増加し、2017 年度は調査開始以来の規模となったが、2018 年度は前年度に比べ 76.4%と大幅に減少した。

**表 1. 保健の用途別市場規模の推移**

		年度								
		1997	1999	2001	2003	2005	2007	2009	2011	2013
		億円	億円	億円	億円	億円	億円	億円	億円	億円
整腸	オリゴ糖	103.7	91.1	56.2	66.8	58.9	71.8	34.0	29.6	68.5
	乳酸菌*1	978.8	1863.0	3171.1	3420.8	3516.8	3249.3	2925.6	2764.2	3562.1
	食物繊維	119.1	115.5	128.1	141.8	129.9	152.5	104.6	107.0	165.4
	小計	1201.6	2069.6	3355.4	3629.4	3705.6	3473.6	3064.2	2900.8	3796.0
コレステロール		0.3	4.3	27.9	113.6	228.0	230.3	234.4	248.8	224.3
血压		13.8	71.6	100.0	88.1	147.7	250.5	208.2	244.9	241.0
骨・ミネラル		92.0	44.9	113.9	120.1	143.3	73.3	192.6	166.7	160.3
歯		0.0	3.7	186.7	804.8	961.0	954.0	512.0	325.9	272.4
血糖値		6.7	5.2	184.3	277.4	232.9	210.5	215.9	180.5	176.6
中性脂肪・体脂肪		0.0	70.0	152.4	635.4	880.7	1606.0	1067.1	1107.3	1404.6
合計		1314.5	2269.3	4120.6	5668.8	6299.2	6798.2	5494.4	5174.9	6275.2

		2014	2015	2016		2017		2018	
		億円	億円	億円	15比(%)	億円	16比(%)	億円	17比(%)
整腸	オリゴ糖	84.1	80.8	80.3	99.3	114.6	142.8	118.4	103.3
	乳酸菌*1	2874.7	3153.5	3145.2	99.7	3188.6	101.4	3468.0	108.8
	食物繊維	197.3	182.3	193.2	106.0	193.6	100.2	208.4	107.6
	小計	3156.1	3416.6	3418.7	100.1	3496.9	102.3	3794.7	108.5
コレステロール*2		218.1	226.2	270.1	119.4	296.0	109.6	327.0	110.4
血压		232.4	205.2	187.0	91.2	181.4	97.0	192.2	105.9
骨・ミネラル*3		154.2	149.0	176.2	118.3	182.2	103.4	185.2	101.7
歯*4・肌		288.6	304.5	299.0	98.2	291.5	97.5	284.0	97.4
血糖値		154.0	181.9	162.2	89.2	151.2	93.2	130.7	86.4
中性脂肪・体脂肪*5		1931.7	1907.9	1950.7	102.2	1986.8	101.8	1518.0	76.4
合計		6135.1	6391.3	6463.5	101.1	6586.1	101.9	6431.9	97.7

\*1 菌類含む、 \*2 コレステロール+整腸含む、 \*3 疾病リスク低減表示含む、 \*4 歯ぐき含む、  
\*5 内臓脂肪、中性脂肪+体脂肪、体脂肪+コレステロール、血糖値+中性脂肪、  
体脂肪+腹部脂肪+ウエストサイズ+肥満含む

## II. 販売経路別および食品の種類別市場構成

### 1. 販売経路別市場構成

販売経路別の市場構成は、調査開始以来、「スーパー」、「コンビニ」が全体の約 5.5～6 割を占めており、構成比率はほぼ同規模で推移している（表 2）。

「スーパー」は、約 4 割を占めて増減しながら推移しており、2018 年度は前年度に比べ 100.8%と微増した。

「コンビニ」は、2011 年度より増加を続けていたが、2018 は前年度に比べ 87.8%と大幅に減少した。

「戸配」は、2009 年度を除き約 3 割を占めて推移してきたが、2011 年度をピークに減少し、その後、2015 年度に再び増加し、増減しながら推移しており、2018 年度は前年度に比べ 109.5%と増加した。

「ドラッグ・薬局」は、2009 年度に構成比率が倍増し、さらに 2013 年度も構成比率がほぼ倍増したが、2014 年度から減少し、その後、ほぼ横ばいで推移しており、2018 年度は前年度に比べ 102.9%と微増した。

「通信販売」は、調査開始以来、構成比率が小さいまま推移しているが、2009 年度に大幅に増加し、その後、微増しながら推移していたが、2018 年度は前年度に比べ 129.7%と大幅に増加した。

表 2. 販売経路別市場構成の推移

年度

販売経路*	1999	2001	2003	2005	2007	2009
	%	%	%	%	%	%
スーパー	49.4	47.2	40.3	42.3	42.5	43.8
コンビニ	12.6	14.6	15.6	14.7	16.0	16.2
戸配	30.8	30.8	34.4	32.8	33.2	26.5
ドラッグ・薬局	4.1	3.8	3.0	3.1	2.7	5.4
通信販売	0.7	1.0	0.8	0.7	0.9	2.4
その他	2.4	2.6	5.9	6.4	4.7	5.7
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

販売経路*	2011		2013		2014		2015	
	億円	%	億円	%	億円	%	億円	%
スーパー	2035	39.3	2521	40.2	2558	41.7	2435	38.1
コンビニ	696	13.5	889	14.2	984	16.0	1037	16.2
戸配	1590	30.7	1502	23.9	1246	20.3	1567	24.5
ドラッグ・薬局	307	5.9	662	10.5	448	7.3	441	6.9
通信販売	162	3.1	179	2.9	241	3.9	242	3.8
その他	385	7.5	523	8.3	658	10.7	668	10.5
計	5175	100.0	6275	100.0	6135	100.0	6391	100.0

販売経路*	2016			2017			2018		
	億円	%	15比(%)	億円	%	16比(%)	億円	%	17比(%)
スーパー	2563	39.7	105.3	2799	42.5	109.2	2821	43.9	100.8
コンビニ	1071	16.6	103.3	1270	19.3	118.6	1116	17.3	87.8
戸配	1433	22.2	91.5	1140	17.3	79.6	1249	19.4	109.5
ドラッグ・薬局	449	6.9	101.7	395	6.0	87.9	406	6.3	102.9
通信販売	283	4.4	116.7	290	4.4	102.4	376	5.8	129.7
その他	664	10.3	99.3	692	10.5	104.2	464	7.2	67.1
計	6463	100.0	101.1	6586	100.0	101.9	6432	100.0	97.7

\* 2009 年度までは、販売経路選択は複数回答としている。

## 2. 食品の種類別市場構成

食品の種類別の市場構成は4種類に区分して調査を行っている(表3)。

全体の構成比率としては、2014年度からほぼ横ばいで推移しているが、「清涼飲料水」は前年度に比べ80.0%と大幅に減少し、「乳製品」は前年度に比べ110.7%と大幅に増加した。「加工食品・調味料」は前年度に比べ90.6%と大幅に減少し、「菓子・その他」は106.8%と大幅に増加した。

表3. 食品の種類別市場構成の推移

年度

食品の種類	2007		2009		2011		2013		2014		2015	
	億円	%	億円	%	億円	%	億円	%	億円	%	億円	%
清涼飲料水	1665	24.5	1315	23.9	1247	24.1	1797	28.6	2315	37.7	2290	35.8
乳製品	3285	48.3	3012	54.8	2840	54.9	3635	57.9	2927	47.7	3198	50.0
加工食品・調味料	879	12.9	599	10.9	636	12.3	428	6.8	410	6.7	402	6.2
菓子・その他	969	14.3	568	10.4	452	8.7	416	6.7	484	7.9	502	8.0
合計	6798	100.0	5494	100.0	5175	100.0	6275	100.0	6135	100.0	6391	100.0

食品の種類	2016			2017			2018		
	億円	%	15比 (%)	億円	%	16比 (%)	億円	%	17比 (%)
清涼飲料水	2342	36.2	102.3	2438	37.0	104.1	1950	30.3	80.0
乳製品	3187	49.3	99.7	3219	48.9	101.0	3562	55.4	110.7
加工食品・調味料	413	6.4	102.7	451	6.8	109.1	409	6.4	90.6
菓子・その他	521	8.1	103.8	479	7.3	91.8	511	7.9	106.8
合計	6463	100.0	101.1	6586	100.0	101.9	6432	100.0	97.7

### 【食品の種類】

1. 清涼飲料水：茶系飲料、炭酸飲料、果実飲料、ミネラルウォーター、ゼリー飲料、コーヒー、粉末清涼飲料（インスタントコーヒー等）など
2. 乳製品：乳酸菌飲料、はっ酵乳など
3. 加工食品・調味料：大豆加工品、穀物加工品、食肉・魚肉加工品、調理油、マーガリン、マヨネーズ、調理酢、甘味料など
4. 菓子・その他：キャンディー、クッキー、ビスケット、チューインガム、ナタデココ、あられ、チョコレート、錠剤、粉末、顆粒、乾燥スープ、即席みそ汁、青汁など



### Ⅲ. 表示許可・承認の状況

#### 1. 表示許可・承認品目の推移

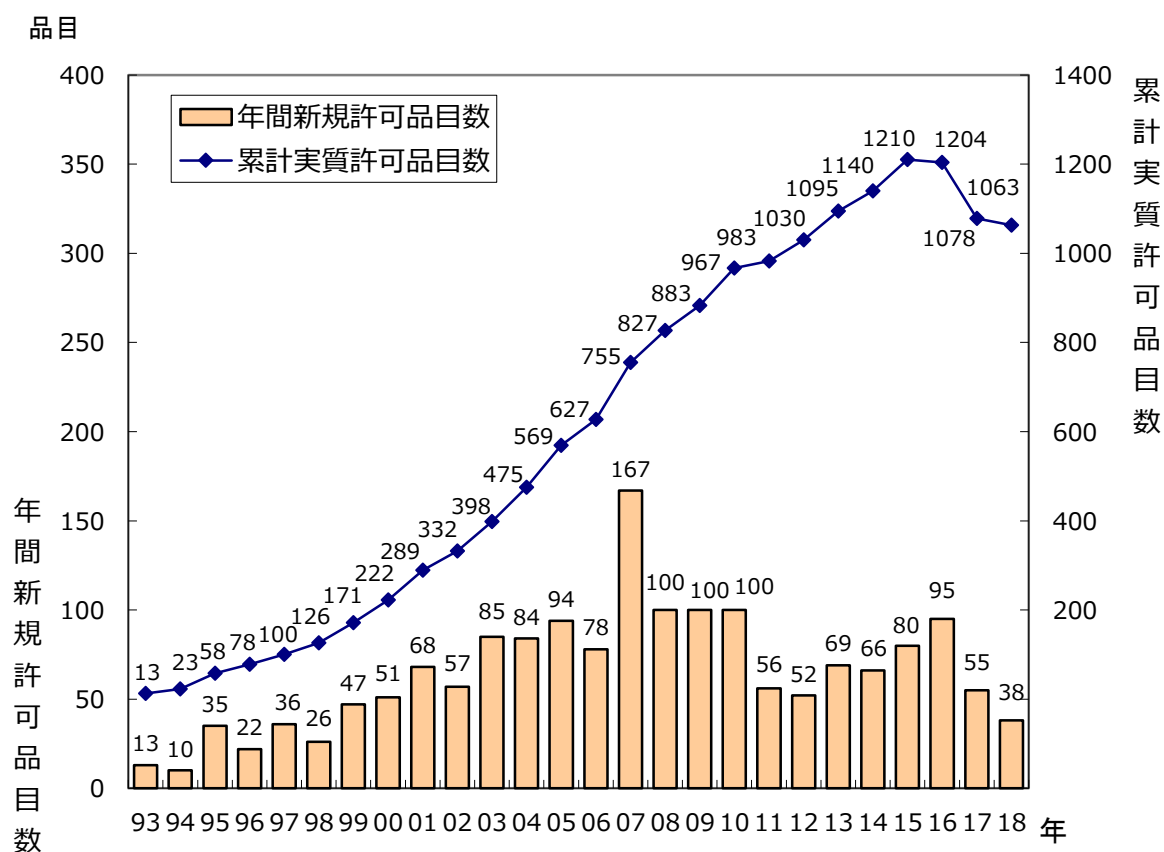
2018年12月末現在の表示許可・承認の品目総数は1063であった（図3）。

2018年1月から12月の1年間に表示許可を受けた特定保健用食品は38品目であった。

保健の用途別許可品目の内訳では、「骨・ミネラル」、「歯関連」、「肌」が1品目増であったが、「中性脂肪・体脂肪」は、10品目減であった。（表4）。

申請区分の内訳では、許可品目数の最も多い「特定保健用食品」は22品目減であり、続いて許可品目数が多い「再許可等」は9品目増となり、申請区分全体では15品目減であった（表5）。

図3. 表示許可・承認品目の推移（2018年12月末現在）



\* 累計実質許可品目数 = 累計許可品目数 - 同失効品目数

表4. 保健の用途別許可品目の推移

年

保健の用途		1997	1999	2001	2003	2005	2007	2009
整腸	オリゴ糖	40	53	62	62	76	78	77
	乳酸菌	8	36	55	61	69	75	77
	食物繊維	24	32	50	70	104	144	169
	小計	72	121	167	193	249	297	323
コレステロール		12	14	37	52	86	114	136
血圧		4	9	24	38	64	88	110
骨・ミネラル		8	10	18	23	33	44	51
歯		3	5	13	26	34	58	68
血糖値		1	3	19	49	72	100	131
中性脂肪・体脂肪		0	9	11	17	31	54	64
合計		100	171	289	398	569	755	883

保健の用途		2011	2013	2014	2015	2016	構成(%)	15比(数)
整腸	オリゴ糖	82	87	88	92	83	7	△9
	乳酸菌	81	82	83	84	81	7	△3
	食物繊維	192	208	223	232	229	19	△3
	小計	355	377	394	408	393	33	△15
コレステロール		139	146	150	155	125	10	△30
血圧		119	126	126	126	137	11	+11
骨・ミネラル		57	63	59	63	61	5	△2
歯		75	86	88	102	106	9	+4
血糖値		148	174	189	210	212	18	+2
中性脂肪・体脂肪		90	123	134	146	169	14	+23
肌		-	-	-	-	1	0	+1
合計		983	1095	1140	1210	1204	100	△6

保健の用途		2017	構成(%)	16比(数)	2018	構成(%)	17比(数)
整腸	オリゴ糖	73	7	△10	70	7	△3
	乳酸菌	57	5	△24	57	5	±0
	食物繊維	209	19	△20	212	20	+3
	小計	339	31	△54	339	32	±0
コレステロール		114	11	△11	111	10	△3
血圧		110	10	△27	106	10	△4
骨・ミネラル		49	5	△12	50	5	+1
歯		87	8	△19	88	8	+1
血糖値		187	17	△25	186	18	△1
中性脂肪・体脂肪		190	18	+21	180	17	△10
肌		2	0	+1	3	0	+1
合計		1078	100	△126	1063	100	△15

品目

表5. 申請区分別許可品目の推移

年

	2007	2009	2011	2013	2014	2015
特定保健用食品	524	517	533	558	553	572
条件付き特定保健用食品	1	1	1	1	1	0
特定保健用食品 (規格基準型)	16	28	47	80	110	135
特定保健用食品 (疾病リスク低減表示)	5	10	14	16	14	16
特定保健用食品 (再許可等) *	209	327	388	440	462	487
合 計	755	883	983	1095	1140	1210

	2016	構成 (%)	15比 (数)	2017	構成 (%)	16比 (数)	2018	構成 (%)	17比 (数)
特定保健用食品	548	46	△24	477	44	△71	455	43	△22
条件付き特定保健用食品	1	0	+1	1	0	±0	1	0	±0
特定保健用食品 (規格基準型)	133	11	△2	131	12	△2	127	12	△4
特定保健用食品 (疾病リスク低減表示)	14	1	△2	12	1	△1	14	1	+2
特定保健用食品 (再許可等) *	508	42	+21	457	42	△51	466	44	+9
合 計	1204	100	△6	1078	100	△126	1063	100	△15

品目

\* 疾病リスク低減表示 13 含む

#### IV. むすび

調査開始以来、2007 年度をピークに減少し続けていた特定保健用食品の市場規模は、2013 年度に大幅な回復を示した後、2014 年度はやや減少したものの、2015 年度から再び増加傾向を示し、2018 年度は 6432 億円と前回は僅かに下回った。

保健の用途別では、トクホ制度発足以来、トクホ市場を牽引してきた「整腸」分野は、2014 年度に減少したが、その後、主力の乳酸菌分野の回復により伸長し 2018 年度は大幅に増加した。

メタボリックシンドロームの診断基準に関連する保健の用途では、「コレステロール」は 2015 年度より増加を続けており、今回も前年度に続き調査開始以来の規模となった。「血圧」は 2013 年度より減少を続けていたが、2018 年度は増加した。「血糖値」は 2015 年度をピークに減少を続けており、2018 年度も減少した。

2011 年度以降、顕著な伸びを示してきた「中性脂肪・体脂肪・肌」は、2007 年度をピークに増減しながら推移してきたが、2018 年度は大幅に減少した。

2005 年度をピークに減少をしている「歯」は、2018 年度も微減した。

販売経路別では、「スーパー」、「コンビニ」が全体の約 5.5～6 割を占めており、2018 年度は「スーパー」は微増し、「コンビニ」は大幅に減少した。2013 年度まで伸長を続けていた「ドラッグ・薬局」は 2014 年度より減少を続けていたが、2018 年度は微増した。「通信販売」は、2016 年度より増加しており、2018 年度は大幅に増加した。

食品の種類別では、2018 年度は「清涼飲料水」は大幅に減少し、「乳製品」は大幅に増加した。「加工食品・調味料」は大幅に減少し、「菓子・その他」は増加した。

特定保健用食品は 1991（平成 3）年に特別用途食品として制度化され、生活習慣病の一次予防を目的とした健康の維持増進や医療費削減への寄与が期待されており、消費者庁では、2019 年度に特定保健用食品の疾病リスク低減表示の拡充に関する調査事業が予定されている。

特定保健用食品が消費者をはじめ、事業者、医療専門家などが理解し、正しく活用できる環境が醸成され、特定保健用食品制度が拡充されることで、国民の健康の維持増進のさらなる向上が図られ、国民医療費の削減にも繋がるものと考えられる。

今後、各企業の新たな保健の用途申請へのチャレンジと新規商品開発による申請数の増加により、広く国民の健康の維持・増進に寄与し、市場の拡大につながることを期待したい。

当協会は今後も消費者庁をはじめ関係各省庁等の指導を得ながら、会員企業と協力して消費者に対する特定保健用食品の正しい使用方法等の情報提供を推進し、更なる普及に努めていきたい。

以上